

8割強の世帯が老後生活に不安

十分な年金・保険、
金融資産がないから

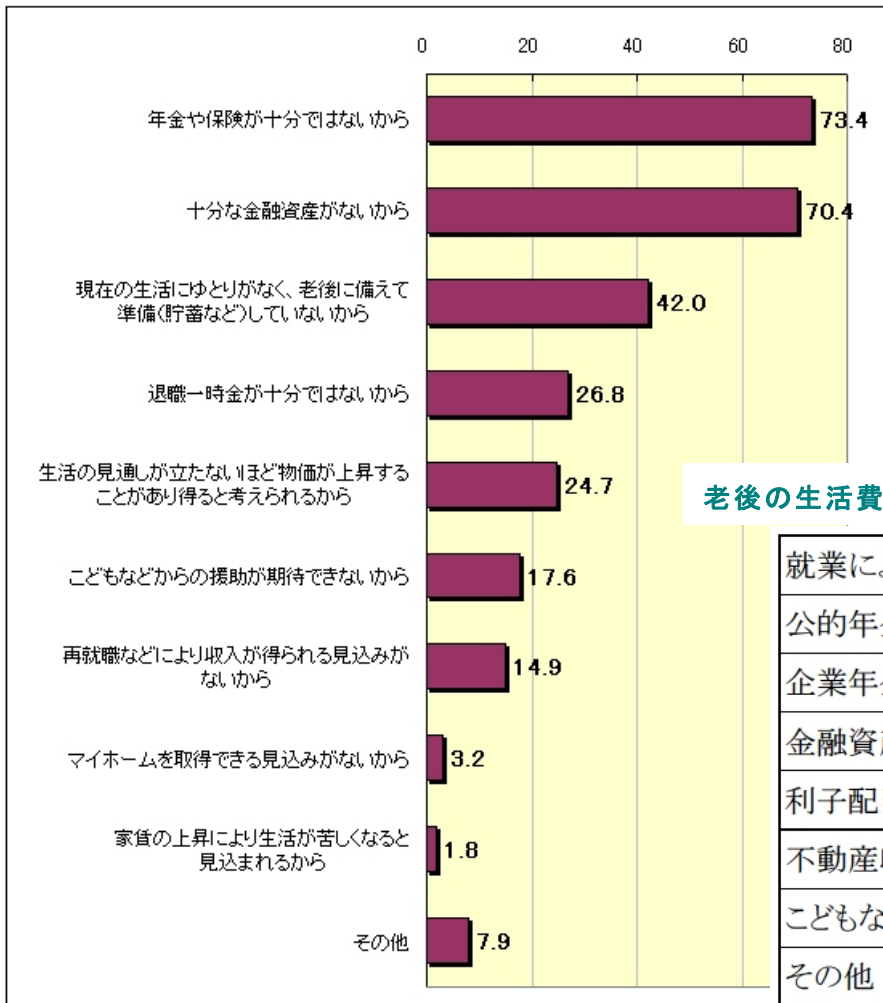
超高齢社会の到来とともに、長くなった老後を不安なく暮らすにはそれなりの準備が必要です。

金融広報中央委員会が毎年実施している「2012年 家計の金融行動に関する世論調査（二人以上世帯調

査）」から、老後生活についての意識をみてみると、昨今の社会・経済状況を反映してでしょうか、「心配である」（「非常に心配」と「多少心配」の合計）が82.4%と、8割強の世帯が心配だと感じているという結果が出ています。

「心配である」と答えた世帯について、その理由について尋ねてみると、「年金や保険が十分ではないから」「十分な金融資産がないから」を挙げる割合が高く7割を超えています。また、現在の生活にゆとりがなく老後への準備ができていないという状況も見えてきます。

老後の生活を心配している理由（複数回答、%）



老後の生活費の収入源については、「公的年金」が約8割となっていますが、「就業による収入」「企業年金、個人年金、保険金」も4割前後となっています。

老後生活では、病気や災害などによる思いがけない出費への備え、自分や親の介護に関する費用への準備も必要になります。早めに、計画的に自らの力で準備しておくことが大事です。

老後の生活費の収入源（3つまでの複数回答、%）

就業による収入	42.7
公的年金	79.9
企業年金、個人年金、保険金	39.8
金融資産の取り崩し	28.5
利子配当所得	2.3
不動産収入(家賃、地代等)	4.7
子どもなどからの援助	4.3
その他	4.7